



北海道地方 ESD活動支援センター

ESD Resource Center of Hokkaido, Japan

2022年度レポート

ESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）は、持続可能な未来の創り手を育む学習・教育活動として、学習指導要領に盛り込まれています。また、ESDはSDGsの達成に不可欠な実施手段にも位置付けられており、2019年には、新たな国際的な枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（SDGs for 2030）」が採択されました。

ESD 活動支援センターは、ESDを推進する全国のネットワークを構築するため、環境省と文部科学省の共同提案により設置されました。地方ESD活動支援センターは2017年度に、全国8か所の地方環境パートナーシップオフィス（地方EPO）に開設され、学校教育や社会教育におけるESDを推進しています。

地方ESD活動支援センター

地方ESD活動支援センター（地方センター）は、地域のESD活動を支援・推進する役割を担う組織や団体である「地域ESD拠点」等との連携のもと、「ESD推進ネットワーク」の広域的なハブ機能を果たしています。

【主な機能】

- 1 ESD活動を支援する情報共有機能
- 2 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- 3 ESD活動のネットワーク形成機能
- 4 人材育成機能

地域ESD拠点

地域ESD活動推進拠点

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等の皆さまに「地域ESD拠点」として登録をいただいています。

地域ESD拠点は地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り込まれるESDを様々な形で支援することで、「ESD推進ネットワーク」において中核的な役割を果たします。登録をお考えの皆さまは、ぜひ北海道地方センターにご相談ください。



- 1 北海道教育大学釧路校ESD推進センター（釧路市）
- 2 北海道羅臼町教育委員会（羅臼町）
- 3 国立大雪青少年交流の家（美瑛町）
- 4 NPO法人旭川NPOサポートセンター（旭川市）
- 5 一般財団法人北海道国際交流センター（函館市）
- 6 ネイパル深川（深川市）
- 7 ネイパル北見（北見市）
- 8 ネイパル森（森町）
- 9 ネイパル厚岸（厚岸町）
- 10 ネイパル砂川（砂川市）



- 11 三笠ジオパーク（三笠市）
- 12 ネイパル足寄（足寄町）
- 13 白滝ジオパーク（遠軽町）
- 14 国立日高青少年自然の家（日高町）
- 15 NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）
- 16 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ（登別市）
- 17 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- 18 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト（余市町）
- 19 北海道名寄産業高等学校 名農キャンパス（名寄市）
- 20 株式会社アレフ えこりん村事業部（恵庭市）

北海道内の地域ESD拠点
(2023年3月現在・登録順)



北海道 メジャーグループ・ プロジェクト



9 groups

北海道での 構成グループ

- ・女性
- ・企業
- ・研究者
- ・先住民族
- ・NPO/NGO
- ・ユース
- ・協同組合
- ・農業従事者
- ・障害者

● 国連メジャーグループとは

国連は、持続可能な社会づくりを達成するために、国連の動きにすべての市民が参加できるよう、9つのグループからなる「国連メジャーグループ」を設けています。

1992年の地球サミットで採択された「アジェンダ21」による「女性」「子ども・若者」「先住民」「NPO/NGO」「地方自治体」「労働者・労働組合」「ビジネス・産業」「科学技術コミュニティ」「農業従事者」の9つのグループです。近年では、「その他の利害関係者」として「地域コミュニティ」「ボランティアと財団」「移民と家族」「お年寄りと障がい者」が加わっています。

● 北海道でも対話を深めよう！

北海道における持続可能な社会づくりにおいても、「誰一人取り残さない」ことを大切に。これを共通の価値として、北海道地方センターでは2020年度より様々なステークホルダーと集い、各グループでの対話を深める「北海道メジャーグループ・プロジェクト（事務局：北海道地方ESD活動支援センター、NPO法人さっぽろ自学校「遊」）を展開しています。

● グループミーティングと全体共有

プロジェクト2022では、キックオフ・ミーティングを実施した後、SDGs指標づくりを目標に各グループでの対話を行い、全体ミーティングで共有を行いました。北海道地方センターでは、ユースグループミーティングを担当するとともに、事務局としてプロジェクトの推進を行いました。

キックオフ・ミーティング

- [日時] 2022年7月23日（土）13:30～16:00 [開催方法] オンライン
[内容] SDGs指標づくりについて知る／指標作成の事例紹介
[参加者] 21人

ユースグループ・ミーティング

- [日時・内容] ※時間はいずれも 19:00～20:30
- ・第1回 2022年11月14日（月）
テーマ：「道内の脱炭素に関する取り組みについて」
ゲスト：北海道地球温暖化防止活動推進センター
加藤 唯さん
 - ・第2回 2022年11月16日（水）
テーマ：「日常の中のジェンダーを考える」
ゲスト：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会
久世ののかさん、高橋紗英さん
- [開催方法] オンライン
[参加者数] 12人

（参加者の感想）
指標の実現可能性や有効性の議論が不可欠で、難しい課題でもあると感じます。

（参加者の感想）
途方もないなと思ってめげそうな社会の諸々について、地理的にも年代的にも近い人たちと話せることが、自分にとってはめげないでいられるパワーになった。

全体ミーティング

- [日時] 2023年3月11日（土）13:30～15:45
[開催方法] 北海道立道民活動センター かでの2・7（札幌市）及びオンライン
[内容] グループミーティング報告と意見交換
[参加者数] 37人

気候変動教育 連続勉強会



● 脱炭素社会の実現に不可欠な「環境教育」

脱炭素社会の実現には、個人のライフスタイルだけではなく社会と経済の仕組みそのものを変える必要があります。そのためには多くの人が気候変動対策の必要性や可能性を理解し、変化を前向きに受け入れてゆくことが求められます。

● 「気候変動教育」の体系化と普及を目指して

学校教育においても、児童・生徒一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」になるよう、環境教育の充実が期待されています。しかし国内の学校では、環境教育は教科として実施されておらず、気候変動問題を体系的に学ぶ機会は限られます。そこで北海道地方センターで、国内の気候変動教育の本格的な体系化や地域での普及を目指し、関心のある皆さんと情報共有と対話を行う連続勉強会、意見交換会を開催しました。2022年度は3回の勉強会を実施しました。

● 連続勉強会 ※開催方法はいずれもオンライン

第7回	[日時] 2022年11月8日(火) 14:00~15:30 [参加者数] 63人 [テーマ] オーストリアにおける地域の気候変動対策を担う人づくり [講師] 高橋敬子氏 (立教大学社会学部特定課題研究員・ESD研究所特任研究員)
第8回	[日時] 2022年10月27日(木) 14:00~15:15 [参加者数] 62人 [テーマ] 社会変容と気候コミュニケーション [講師] 江守正多氏 (東京大学未来ビジョン研究センター教授/国立環境研究所地球システム領域上級首席研究員)
第9回	[日時] 2022年12月13日(火) 14:00~15:30 [参加者数] 40人 [テーマ] 若者のシビック・アクションを促進する気候変動教育とは? ~他者協働・社会参画アクションのすすめ~ [講師] 森 朋子氏 (国士舘大学 政経学部 政治行政学科 専任講師)



(参加者の感想)

- ・先進的な取り組みが属人的なものではなく、人材育成によるプログラムによってなされていることを知ることができて、大変参考になりました。
- ・気候変動に対する取り組みの要点等が的確に提示された。
- ・大学生の活動支援や高校生も含めたアクション促進を行っていきたくところだったので、大変参考になりました。

● 意見交換会

・気候変動教育意見交換会 in 札幌

- [日時] 2022年9月29日(木) 14:00~16:00
- [場所] 公益財団法人北海道環境財団(札幌市)
- [内容] 北海道における気候変動教育展開の可能性
- [参加者] 16人(教育関係者、行政、企業等)



・ESD 全国ネットワーク団体 意見交換会 第2部

- [日時] 2022年9月12日(月) 15:00~16:30
- [場所] 地球環境パートナーシッププラザ(東京都) 及びオンライン
- [内容] 国立環境研究所等からの情報提供と今後の展開の際に考慮すべき点等
- [参加者] 37人(気候変動対策に関係する機関、地方ESD活動支援センター等)
- [主催] ESD活動支援センター、北海道地方ESD活動支援センター

気候の変化等から、次世代へ継ぐサステナブルな社会を構築する必要性が肌身で感じられる現在。地域でESDを推進する拠点では、本質的なプログラムの展開が求められています。

そこで、2022年度の「ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム」では、ESD実践拠点のための学び直しをテーマに、若手・中堅スタッフを対象にフォーラムを実施しました。



● ESD 実践拠点のための学び直し勉強会

[開催日時] 2023年2月16日(木) 14:00~16:30

[開催方法] オンライン [参加者数] 36人

[プログラム]

1. 開会、趣旨説明
2. 講演「いまさら聞けないSDGs ~世界ゴトから自分ゴトにするプログラムづくりとは?」
井澤友郭氏(こども国連環境会議推進協会事務局長)

2003年から「持続可能性」や「危機管理」をテーマに、各地の学校や企業、自治体等にワークショップなどの教育コンテンツを提供。2016年から、地域活性化を目的としたプログラムを多数開発しながらファシリテーション講座等も開催している。ファシリテーターとして年間200回ほど登壇し、延べ4万人以上の学生・社会人を育成してきた。2020年「問う力は最強の思考ツールである」を上梓。

3. 地域ESD拠点より事例紹介

中田 靖氏(羅臼町教育委員会 ふるさと教育担当)

舩田暁史氏(北海道立青少年体験活動支援施設
ネイパル森 社会指導主事)

4. 質疑応答・パネルディスカッション
5. 参加者意見交換・全体共有



今一度SDGsやプログラムをアップデートするための「問う力」をつける機会として、初任者をはじめ若手のスタッフや中堅スタッフを対象に実施しました。登壇者・参加者含め5か所の地域ESD拠点が参加し、拠点同士が交流する機会にもなりました。

井澤さんからの講演を通してSDGsの説明や問いの立て方について学びを得たほか、事例紹介やパネルディスカッションではプログラム作りで意識していることや先進事例の裏で苦労していることなど様々な話がありました。

グループに分かれての参加者意見交換では講演と事例紹介、パネルディスカッションを通して得られた学びや気づいたことについて共有しました。活動エリアや知識量が違って同じ分野で取り組み学び合う仲間としてつながりをつくることができました。

(参加者の感想)

- ・より深く理解してもらうためのアプローチ、たくさんヒントをもらいました。
- ・SDGsプログラムの導入の手法や他団体のプログラム事例が参考になりました。
- ・井澤さんのご講演に学べる箇所が多く参考になりました。
- ・「問い」にいっきまでのプロセスも学ぶことができ、概念と事例をセットにすることにもハッとさせられました。大人向け、子供向けにいろいろ試行錯誤しながら問い続けていきたいと思えます。

ESD アドバイザー 派遣制度



北海道地方センターでは、道内の学校教育・社会教育におけるESD/SDGsの導入や実践、現場の課題解決を支援するため、「ESDアドバイザー」を派遣しています。アドバイザーへの謝金及び旅費は北海道地方センターが負担します。オンラインでのご利用も可能です。

● こんなお悩みはありませんか？

「主体的・対話的で深い学び」はどのようにすれば実現できるのか？
SDGsを、学校や地域の施設での学習に取り入れるには？ 施設の事業計画とESD/SDGsとの関連は？ ...学校教育・社会教育に関係する皆さんの、SDGsの教育分野への具体的な取り入れ方等のお悩みに対応します。

● 登録アドバイザー ※五十音順、所属は2022年4月現在



大津 和子さん
(北海道教育大学名誉教授)

キーワード：主体的・対話的で深い学び/
SDGs/国際理解教育



松田 剛史さん
(藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授)

キーワード：SDGs/カリキュラム・マネジメント/
PBL/教育課程



金澤 裕司さん

(前 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹)

キーワード：自然と人間/地域の持続的発展/
総合的な学習による学力向上

● 派遣制度ご利用の条件

1. 派遣の目的が道内におけるESDの導入・実践・課題解決であること
2. 主催者が非営利団体（行政機関を含む）であること
3. 助言や支援の対象がESDの実践者または関係者であること
4. 宗教・政治活動が目的ではないこと

(利用者の感想)

- ・ESD/SDGsと地域学習の関係がとてもよく理解できた。
- ・実際の授業事例は、今後の実践に役立てられそうだ。

● 2022年度の派遣実績 (申請主体 - 派遣方法 - テーマ)

- ・赤井川村立赤井川小学校 - オンライン - ESD/SDGsの理論と実践、教育課程への位置付け
- ・JICA北海道センター(帯広) - オンライン - 学校や地域との連携方法
- ・羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会-オンライン及び現地 - ESD、SDGsと知床学

北海道地方ESD活動支援センター
(環境省北海道環境パートナーシップオフィス内)

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル7階

TEL 011-596-0921 FAX 011-596-0931

URL <https://hokkaido.esdcenter.jp>

発行 2023.3

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS